

# 国・厚生省は早急に対策を!



このように、あつという間に感染するアリ病の実体が明らかになった。有永助教授の推計によると全国で急性アリ病感染者五、〇〇〇人、劇症型は200人いるという。アイブベアの堀口社長も保菌者だという。しかも、年々増加の傾向にあり、5年後には10倍、10年後には50倍になると予測している。このままでは、日本中アリ病患者になってしまう。

経済的にも政治的にも大問題だと経済学者の四州大学・高松教授は言う「5点ほど挙げましょうか。まず**テレビを見る時間が減りますね**。これだけでも経済は大打撃です。視聴率が下がるということは、CMの金額が下がる、出演者のギャラが下がる、笑いが減る、CM商品の売り上げが落ちる、不景気になる。仕事に余裕ができてアリの飼うと、悪循環にはまり込みますね。2点目に、虫を餌に

するために殺虫剤の使用が減ります。その延長で農薬の使用反対派が活気づきますね。無農薬が蔓延すると農協が打撃を受けます。農薬が売れないと農協は致命的です。現在でも国・農林水産省の農業政策に不満が蔓延していますからね。これが一気に拡大し、同時に民自党は票田が壊滅します。**社会不安が広がりますね**。さらに3点目、アリの棲息場所を見なくなつたアリ病患者が山野に出ます。ただでさえ花粉病が問題になっている状況で、**アリのいない杉林に不満が爆発**します。材木として売れない、花粉は出す、動物の餌は生産しない、保水力はないと、使えない杉林を広葉樹林や松林に戻せ!とね。杉の植林を推進した農林省は危機です。同時に松枯れ対策での農薬散布の犯罪性が再度問題化しますね。裏金問題もね、外務省、厚生省、総務

省と続きましたからね。全省庁で調査ですね。大幅な政治改革が起きるでしょう。そして4点目、野外に行つたついでに**山菜、ノイチゴ、アケビ、キノコ、ドングリや山栗などを採って食べ、日本人本来の味を思い出してしま**います。ここ数十年で日本人の食文化は乱れて来ましたが、でも数千年かけて構築された味覚文化は、簡単に戻れます。高級食材やファストフードが売れなくなりますが。あと一つ、野外に着飾つて化粧していく人はいませぬね。アリも化粧品の香りに敏感に反応しますからね。スズメバチもね。**生活全体が質素になってしまいます**。挙げ句の果てに、多少の汚れを気にしなくなります。日本は高度成長期以降、綺麗で清潔、豊かな生活を目指してきました。この構造が崩壊してしまうのです」。

国会議員でもある欲添さんは「そんなことになったら、**金が回らなくなり**ます。金

が回らなければ日本は駄目なんです。日本人は、綺麗にして着飾って、豪華で美しいものを食べ、ボーツとテレビを見て、何も考えずに仕事をして、投票しなければ駄目なんだ。**こんな病気が蔓延したらもう、この世は終わり**ですね。どうしようもない。すぐに厚生省に働きかけますよ、総理に言つて」と語つた。これで安心だ。可及的かつ速やかに対策が取られ、社会問題になる前にアリ病ウイルスは絶滅するであろう。

しかし、厚生省は対応する気はないようだ。特殊疾病対策課長の熊本さんは「アリ病ですか?はー、そんな報告がねえ。筑波医大の助教授ですか?あそこは異端ですから。高松教授のコメント?彼も異端ですからね。うちの諮問委員である教授達からは何も聞いていませんよ」という。やはり厚生省は旧帝国大学しか相手にしないようだ。日本の未来は危ない!

以下、次号